

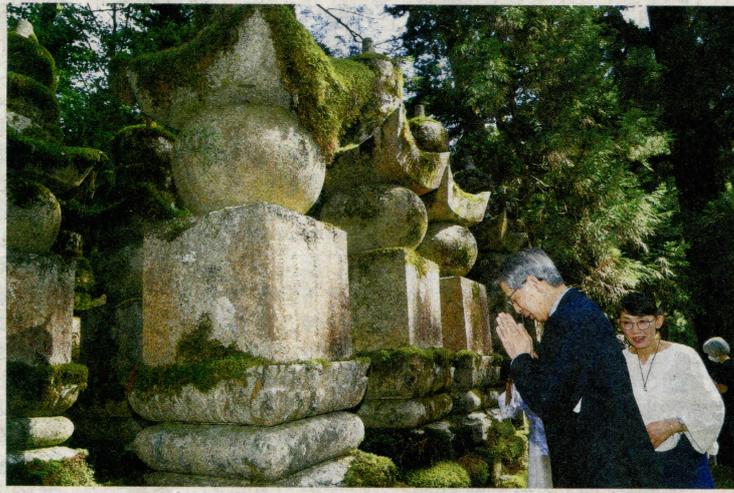
大昔調査会 世界遺産の高野山巡る旅

諏訪信仰との縁 実感

諏訪地域の歴史的文化遺産の保護、活用に取り組む大昔調査会（高見俊樹会長）は19、20日に1泊2日の日程で、真言密教の聖地とされる世界遺産の高野山（和歌山県高野町）を巡る旅を行った。真言宗の仏法紹隆寺（諏訪市四賀）の岩崎宥全住職（46）の案内の下、諏訪大社、八劍神社の神職を始め43人が参加。総本山の金剛峯寺、高野山の二大聖地とされる奥之院、壇上伽藍などを巡り、高野山と諏訪信仰のつながりを確認した。

（野村知秀）

高島藩主 諏訪家の墓所も



奥之院参道にある高島藩主諏訪家墓所の供養塔群

諏訪大社神宮寺由来の仏像の一斉公開企画「諏訪神仏プロジェクト」（2022年）をきっかけに機運が高まった神仏習合の信仰について、さらに学びを深めようと企画した。19日は諏訪大社の神職が金剛峯寺を表敬訪問した。

国宝・多宝塔がある金剛三昧院の宿坊に宿泊した一行は20日、朝の勤行に参加した。荘厳な響きの読経を見守り、焼香、礼拝した。

真言宗の開祖、弘法大師空海の御廟がある奥之院では、杉木が立ち並ぶ山道に皇族や大名家、高僧らの墓地が集まっている。江戸時代に諏訪地域を治めた高島藩歴代藩主、諏訪家の墓所もあり、藩主ら

の髪や爪など体の一部を納めた供養塔群は他の大名家の墓

22基が建つ姿は庄巻だった。御廟前では岩崎住職に合わせ経を唱えた。その後、弘法大師が高野山を開創した際に真言密教の根本道場を開いた聖地「壇上伽藍」にある高さ約50呎の「根本大塔」、高野山の総本堂「金堂」などを見学した。参加した岩波均さん（66）は「諏訪市中洲」は「諏訪大社の高野山への表敬訪問という歴史的な場面に立ち会えた。神と仏と一緒に敬い、心のよりどころとする私たちの本来のらう旅だった」と話した。岩崎住職は「高野山と諏訪信仰の近さを感じてもらえたと思う。かつての信仰の姿を皆さんに感じてもらえたのではないかと語った。

高見会長（68）は「高野山には神仏習合のかけがえのない文化があり、それがしっかりと残っており、そもそも弘法大師が神を敬い、その教えが続いている。神職と僧侶と一緒に参拝したこの旅の意義は大きかったと思う」と振り返った。